



小田地域を彩る菜の花

各地域で菜の花満開 菜種で農地利用促進

5月中旬、町と町農業委員会が遊休農地の解消策の一環として作付けを推進する菜種が町内各地で満開となり、鮮やかな黄色の菜の花が地域を彩り、住民の目を楽ませました。

小田地域では、農家の皆さんが作付けした一面の菜の花が新緑の山々と共に美しい里山風景を演出。門場政一農業委員は「地域の人が喜んでくれて、荒廃農地の解消に役立てて良かった。菜種の収穫まで町や地域と協力していきたい」と話していました。菜種は7月頃に収穫し、「くずまきなあぶら」に加工する予定です。

第二風力発電所 安全運営を願う

(株)ジェイウインドくずまきは5月20日、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために延期していたくずまき第二風力発電所の竣工式を執り行い、関係者約50人が出席しました。

令和2年12月に完成した22基の風車は、出力44,600kW、年間約31,000tの二酸化炭素削減に貢献します。鈴木重男町長は「グリーンエネルギーを推進する町のシンボルとして、また観光や交流人口増加の拠点としても期待される施設です。事故なく安全に運営され、発展することを願います」とあいさつしました。



くずまき第二風力発電所を視察する関係者



会議に出席した自治会長の皆さん

自治会長が一同に 行政連絡会議開催

令和4年度行政連絡会議は4月22日、総合センターで開催され、各自治会長と町職員約50人が出席しました。

初めに、冬部、市部内、名前道の3自治会が統合したことが報告されました。鈴木重男町長は「各自治会の充実が、安心して暮らせる町づくりにつながります。今後も地域と行政のつなぎ役をお願いします」とあいさつしました。その後、町から役場新庁舎建設の進捗状況や、令和4年度の主要事業を説明し、自治会長の皆さんは真剣に耳を傾けていました。

GWに牧場賑わう 3年ぶりに体験も

4月29日から5月8日、第14回くずまき高原牧場鯉のぼりまつりが開催されました。

同イベントは昨年と一昨年、コロナ禍のため規模を縮小して鯉のぼり鑑賞会として開催していましたが、今年はさまざまな感染症対策を講じ、レストランや焼き肉ハウスも営業。県内外から訪れた多くの観光客が、牛肉や乳製品など牧場の食の魅力を堪能していました。また、牛の餌やりや手作りバターなど、牧場ならではの体験も3年ぶりに開催され、子どもたちの人気を集めていました。



手作りバター体験を楽しむ家族

袖山に牛600頭放牧 のびのびと草を食む

5月下旬、(一社)葛巻町畜産開発公社が、袖山高原に約600頭の乳牛を放牧しました。

冬の間農家の牛舎で飼育されていた牛たちは、トラックから放牧地に放たれると、初めは興奮したように走り回っていましたが、すぐに群れをなして青々とした牧草を食べ始めていました。

昭和51年から続く袖山高原の放牧は、今年乳牛導入130周年となる酪農の町の象徴とも言える風景です。牛たちは職員の安全管理の下、涼しい山で夏を過ごし、足腰を鍛えながら10月下旬までのびのびと健康的に育ちます。



職員によりトラックから放牧地に降ろされる乳牛



相手チームと激しくボールを奪い合う葛巻クラブの選手

葛巻クラブが初戦 惜敗するも初得点

社会人サッカーの葛巻クラブは5月15日、胆沢川桜づつみ多目的広場(奥州市)で奥州ユナイテッドFCと対戦しました。

社会人東北リーグ2部北の初戦となったこの試合は、相手チームの応援が大多数のアウェー戦。試合は1対4で惜しくも破れはしましたが、前半に及川拓人選手がリーグ戦の初得点を上げました。田中奎治キャプテンは「東北リーグのレベルの高さを感じたが、最後まで走り抜いた。次回は葛巻のホーム戦なので、勝ち点を取りたい」と力を込めていました。